

風疹に関する疫学情報：2026年7月29日現在

国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 予防接種研究部

2026年第30週の風疹報告数

2026年第30週（7月20日～7月26日）の風疹報告数は0人であった（図1, 2-1, 2-2）。なお、第30週に診断されていても、2026年7月30日以降に遅れて届出のあった報告は含まれないため、直近の報告数の解釈には注意が必要である。

先天性風疹症候群の報告数

2008年の全数届出開始以降の風疹ならびに先天性風疹症候群（congenital rubella syndrome: CRS）の報告数を示す（<https://id-info.jihs.go.jp/niid/ja/diseases/ha/rubella/8588-rubella-crs.html>）。2018～2019年の流行で、2019～2021年に6人がCRSと診断され報告された（図3）。2021年第3週以降報告はない（図3）。

2013年以降の風疹報告数

2013年（14,344人）の流行以降、2014年319人、2015年163人、2016年126人、2017年91人と減少傾向であったが（図2-1, 2-2, 3）、2018年は2,941人、2019年は2,298人が報告された。2020年以降は再び報告数が減少し、2020年は101人、2021年12人、2022年15人、2023年12人、2024年9人、2025年11人（暫定値）であった。前回の風疹に関する疫学情報（2026年第16週）以降、第20週、第28週に一人ずつ報告があった。2026年第30週時点での累積報告数は3人（暫定値）である（図1, 2-1, 2-2, 3）。

図1 週別風疹報告数(2026年第1～30週) (n=3)

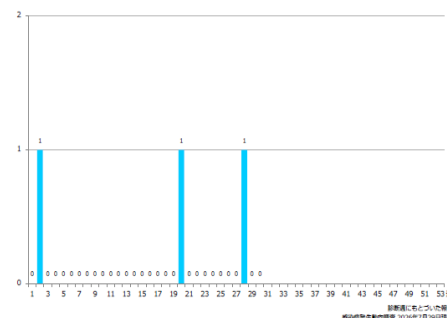


図2-1 風疹累積報告数の推移 2018～2026年第30週

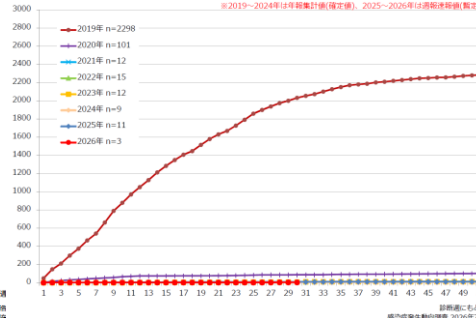


図2-2 風疹累積報告数の推移 2019～2026年第30週

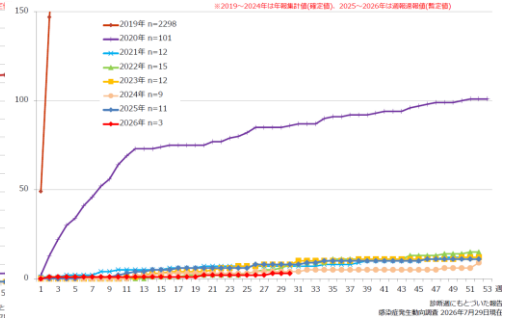
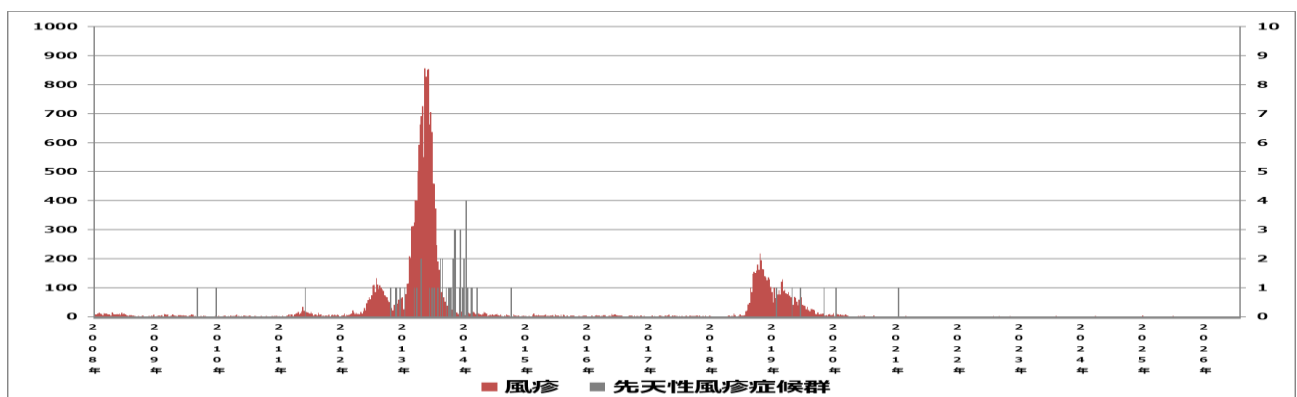


図3 週別風疹・先天性風疹症候群報告数（2008年第1週～2026年第30週）

風疹（人）

先天性風疹症候群（人）



地域別報告数

第30週は、風疹の報告は無かった（図5）。2026年は第30週時点で全国として3件、東京都、神奈川県、三重県から1件ずつ報告があった（図4、7）。人口100万人あたりの患者報告数は全国で0.02人、東京都、神奈川県、三重県で0.07人、0.11人、0.56人であった（図6）。

図4 都道府県別病型別風疹累積報告数(2026年第1～30週) (n=3)

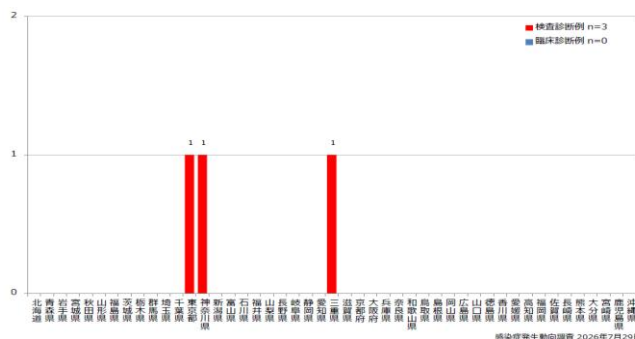


図6 都道府県別人口百万人あたり風疹報告数(2026年第1～30週) (n=3)

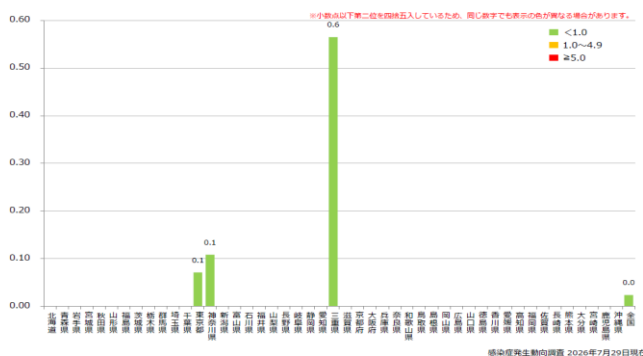


図5 都道府県別病型別風疹報告数(2026年第30週) (n=0)

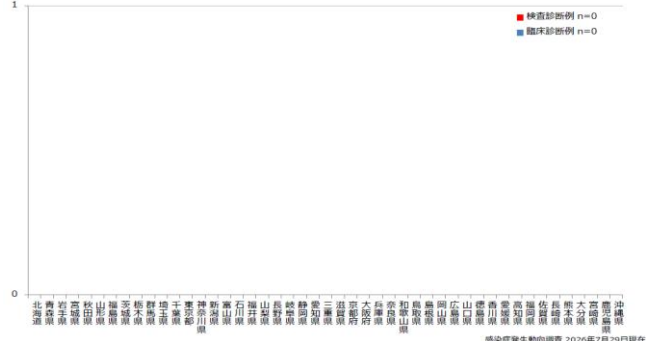
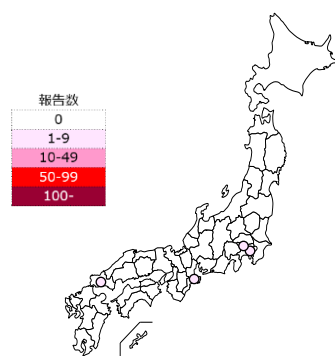


図7 都道府県別風疹報告数(2026年第1～30週) (n=3)



症状

多い順に発疹 3 人 (100%)、発熱 2 人 (67%)、咳 1 人 (33%) であった。発熱、発疹、リンパ節腫脹の 3 主徴すべてがそろって報告された者はいなかった。

検査診断の方法

3 人 (100%) が検査診断例であった。診断方法は、全て血清 IgM 抗体の検出であった。PCR は 3 人全員実施され、陰性であった。風疹の届け出については、迅速な行政対応を行うため、臨床診断をした時点でまず臨床診断例として届出を行うとともに、血清 IgM 抗体検査等の血清抗体価の測定の実施と、都道府県等が設置する地方衛生研究所でのウイルス遺伝子検査等の実施のための検体の提出をしていく必要がある。血清 IgM 抗体検査は発疹出現から 4 日目以降に実施する必要があるが、PCR 検査は発疹出現後 7 日以内に検査する必要がある、注意が必要である。

推定感染原因

2 人（67％）が推定感染原因は不明、1 人（33％）は飛沫感染であった。

年齢・性別

報告患者のうち、男性が 1 人（33％）、女性が 2 人（67％）で、患者の年齢中央値は 男性が 16 歳、女性が 35 歳（1～69 歳）（図 8, 9, 10）であった。

図8 年齢群別接種歴別風疹累積報告数(男性) (2026 年第 1～30 週) (n=1)

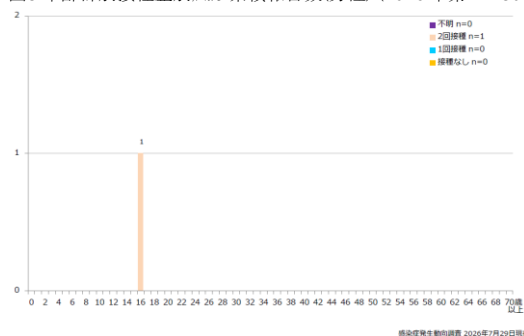


図9 年齢群別接種歴別風疹累積報告数(女性) (2026 年第 30 週) (n=2)

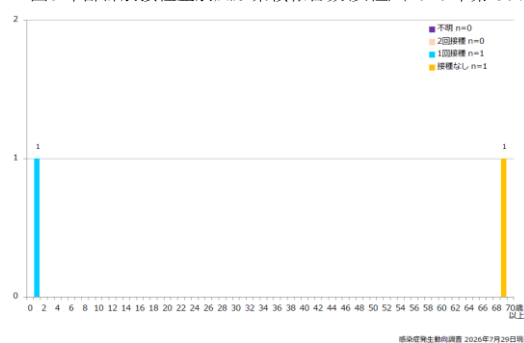
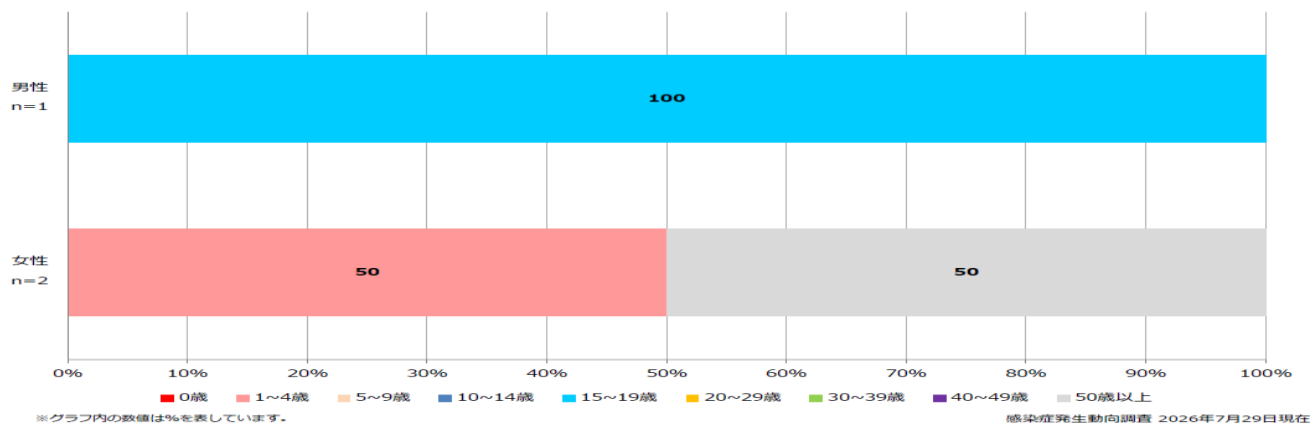


図 10 年齢群別風疹累積報告数割合（男女別）（2026 年第 1～30 週）(n=3)



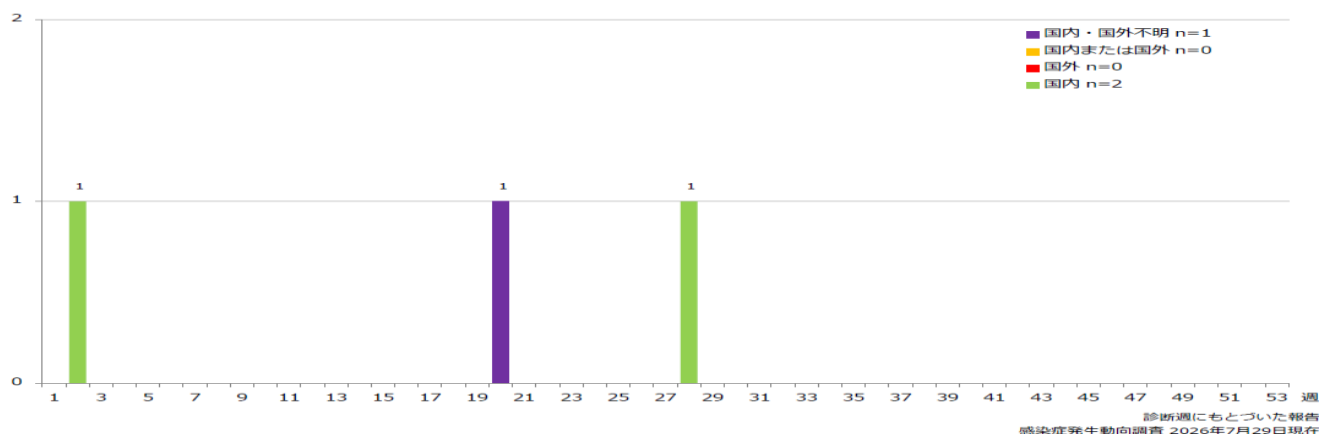
予防接種歴

接種歴はありが 2 人（67％、1 回接種 1 人、2 回接種 1 人）、なしが 1 人（33％）であった。

推定感染地域

推定感染地域は、国内が 2 人（67％）、国内・国外不明が 1 人（33％）であった（図 11）。

図11 週別推定感染地域（国内・外）別風疹報告数 （2026 年第 1～30 週） (n=3)



風疹 HI 抗体保有状況

予防接種法に基づいて毎年調査が行われている感染症流行予測調査によって国民の抗体保有状況が調査されている。2025 度の調査数は約 4,100 人で例年より少ないものの、2020 年度に約 3,000 人まで減少した時期と比較すると多くの方にご協力いただいた。成人男性の抗体保有率（HI 抗体価 1:8 以上）は 40 代後半で 87%、50 代前半で 89%、50 代後半で 88%、60 代前半で 88%であった（図 12-1）。一昨年度まで、風しんの追加的対策が行われ、対象世代の男性の抗体保有率は 89.0%（2024 年度時点 2025 年 2 月集計の暫定値）まで引き上げられたものの、2019～2020 年の風疹患者報告の中心はこの年齢層の成人男性であることから、引き続きこの集団に対する注意が必要である。一方、妊娠出産年齢の女性の抗体保有率は概ね 95%以上で高く維持されていた（図 12-2）。妊婦健診で低いと指摘される抗体価（HI 抗体価 < 1:8, 1:8, 1:16）の割合は 20 代前半で 35%、20 代後半で 25%、30 代前半で 28%、30 代後半で 25%、40 代前半で 18%、40 代後半で 21%存在することから（図 12-2）、特に妊娠 20 週頃までの妊婦の風疹ウイルス感染には注意が必要である。

図12-1 男性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況

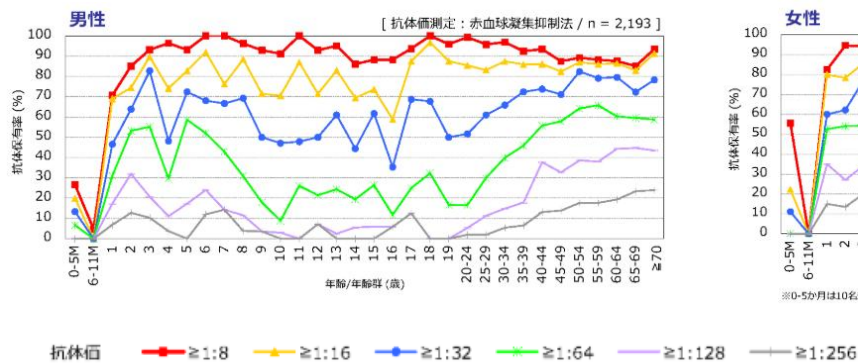
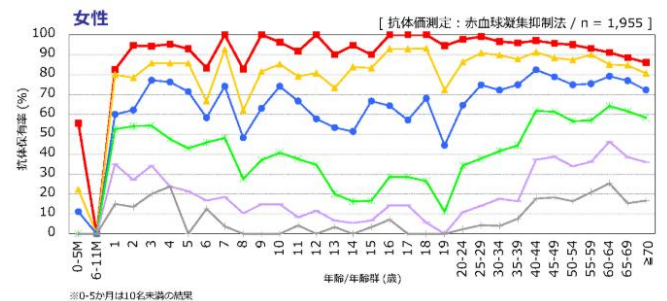


図12-2 女性年齢/年齢群別風疹 HI 抗体保有状況



流行予測2025

【2025年度風疹感受性調査実施都道府県】

北海道、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、石川県、長野県、三重県、山口県、高知県、福岡県